

2019年度 第4回OR学会理事会 議事録

日時:2019年10月17日(木)17:00~18:30

場所:(株)日立製作所 第3会議室(秋葉原 ダイビル18階)

出席理事:齊藤,河東,木村,松井,森田,土肥,加地,詹,繁野,松本,三好,堀田,矢野,鳴谷,渡部

欠席理事:村松,椎名,藤本

出席監事:大城,渡辺

事務局:内山,横井(書記)

【審議事項】

1. 前回議事録確認

鳴谷庶務理事より報告があり,確認された. 次回以降は,より時間をかけて確認ができるように早めに配布する予定である.

2. 入会承認の件

鳴谷庶務理事より説明があり,承認された.

3. 2019年度第2Q収支の件

堀田会計理事より説明があり,承認された. 集計の仕方に変更があった. 事務局でどの事業に属するか判断不能な費用(共通諸費)に関しては,按分するのではなく,公益共通とすることとなった.

4. 2019年秋季研究発表会・シンポジウム収支決算の件

土肥大会理事より説明があり,承認された. 参加者数の増加により,予算案よりも収益は増大した. 支出に関しては,印刷費・アルバイト代などでの面で予定より支出増,その他は予定通りであった. 懇親会・シンポジウム・研究会を合わせた全体収支は黒字であった.

5. 2020年春季研究発表会・シンポジウム予算案の件

三好研究理事より説明があり,承認された. 会場費が高額であるため,参加費の値上げをしている. 参加費の値上げ以外にも,参加者を増やす工夫(集客力のある講演者の招待や,近隣の観光名所のアピール)や予算の圧縮を行う予定である旨が説明された. 値上げは今回限りのこととする.

森田理事より,「非会員と会員の参加費の差をより大きくしても良いのでは」という意見があった.

渡部理事より,「今後WGでも参加費については話し合っていく」との説明がなされた.

堀田理事より,「ここで考慮されていない,事務局の旅費等の費用があるので,現在の見積もりよりはマイナスになることが見込まれる(地方開催の場合は+50万ほど)」との指摘があった.

河東副会長より、「参加者は参加登録・宿泊確保等などの準備の時間を要するので、早からの宣伝活動が必要である」との指摘がなされた。

森田理事より、「すでにHPは完成しており、近日中に公開予定である」との報告がなされた。

木村副会長より、「予算の懇親会招待者10名では少ないのでは」との意見があったが、人数増・予備費で対応することが確認された。

6. 2020年秋季研究発表会・シンポジウム計画案の件

三好研究理事より説明があり、承認された。会場周辺は宿泊施設が少なく、多くの参加者が札幌から30分かけて会場へ通うことが予想されるため、アクセス方法については十分に周知・案内する必要がある。会場費が無料であるという利点がある。

7. 2019年度第1回 OR セミナー収支の変更の件

松本普及理事より説明があり、承認された。講師が欠席した件については、補講等が難しく、開催案内に記載した通りの内容を提供できないため、参加者へ参加料の返金を行う。講師には、資料作成代として、謝金を支払う方針となった。次回からは、講師へのリマインドや、緊急連絡先の聞き取りなどを行い、同様のことが起きないように努めるとのこと。返金を受け取る人数が未定であるため、最終的な収支計算はまだできない。Python系の講座は人気なので、今後も取り上げていくことが確認された。

8. 2019年度第3回 OR セミナー企画案の件

松本普及理事より説明がなされ、承認された。通常の回のORセミナーと同様の収支案となっている。前回の量子コンピュータを扱ったORセミナーは企業の方を中心に十分な人数の参加者が集まったため、今回も同様になることが見込まれる。

9. ORセミナーに関する統計数理研究所への協力依頼の件

松本普及理事より説明がなされ、承認された。ORセミナーの毎回の講師や話題の設定は容易でないため、今後継続的に講師・話題を提供してもらうために、統計研との提携をする予定である。統計研がOR学会に貢献していることが明示化されるように、利益の一部を統計研に配分するという方向で話を進めている。

齊藤会長より、「著作権や予算、責任関係についてのことは、きちんと取り決める必要がある」との指摘がなされた。

10. 顧問弁護士との契約の件

渡部庶務理事より説明があり、承認された。今後契約内容の詳細を決定していく。運用方法としては、庶務理事が各理事と事務局からの相談案件をとりまとめ、事務局に問い合わせる、という形式をとる方針である。今回理事会での承認を得たのち、弁護士事務所との本格的な交渉を行っていく予定である。

11. 事務局長の2020年度契約更新の件（資料は当日配布）

鳴谷庶務理事、渡部庶務理事より説明があり、承認された。今後、職員就業規程を見直し、新たな定年を定めようとして、一年単位での契約更新をしていくという方針が提案され、認められた。

【報告事項】

12. 会員制度見直しに関する進捗の件

渡部庶務理事より説明がなされた。会員制度検討WGによる見直しの進捗状況が報告された。12月の理事会で会員制度と会費に限定して原案提出を予定している。中間報告では議題が広がりすぎていたため、対象を絞って具体的な案をまとめていく方針である。検討範囲外の課題については、課題として状況報告は行うこととする。

齊藤会長より、継続的に議論していくことの重要性が指摘された。渡部理事より、「現在のWGメンバーも限られているため、まずは議題を絞って期日までに結果を出すことも重要である」との回答があった。

13. 理事会メール審議手続きの件

渡部庶務理事より説明がなされた。メール審議の手続き方法についての確認がなされた。議事録等が残らないというのが問題点であり、これの解決策を明確化していく必要がある。原則としては議事録を作成することとし、議事録の作成者等については今後検討していく。

渡辺監事より、「メール審議が正式な理事会として認められるのかどうかという点が難しいので、手続き方法や議事録の書き方等、複数の他学会を参照してきちんと確認をとる必要がある」との指摘がなされた。

14. 規程見直しの件（資料の一部は当日配布）

鳴谷庶務理事より説明がなされた。現在、各理事に現状の規程についての修正案の提出を求め、とりまとめている段階である（10月末を締め切りとする）。10月末までの見直しではフォーマット統一作業は不要であることが確認された。

森田理事より、「各支部の支部規則も見直す必要があるか」との質問がなされた。今どの資料が最新のものなのか不明確な状況である（HPに記載されているものが最新でない可能性がある）とのこと。

鳴谷庶務理事より、「全体統一の支部規則は理事会で決め、その他の部分は各支部で作成する」という方針が提案された。

15. 2020年度予算作成の件

堀田会計理事より説明がなされた。1月の理事会での決議をするために、12月の頭には各理事に来年度の予算案（収入・支出）を提出してもらう必要があるとのこと。各理事が提出する予算報告フォーマットについて、記載内容に関する確認を行った。

16. 2020-2021年度役員等選挙の件

渡辺監事(選挙管理委員会)より説明がなされた。嶋谷庶務理事より補足説明がなされた。会長の交代に際しては、情報や学会の方針の引継ぎがきちんと行われるべきである。新会長候補者に対して、現状の課題や方向性を伝える機会(引継ぎ会)を設ける予定である。案内は後日連絡される。

木村副会長より、「代議員の人数は正会員のみでなく学生会員等の人数も加味されていないのか」という意見があった。

渡辺監事より、「配分結果は計算方式により変わりうるものであり、その妥当性の根拠の説明は難しい。今回はハミルトン方式に絞って決定した」との回答がなされた。代議員数とその配分については、定款や規程にも関係することから今後も検討することとなった。

17. 2019年度前半代表理事職務執行状況報告の件
各代表理事より説明がなされた。

上記議決を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人はここに記名押印する。

公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

2019年度 第4回理事会

議事録署名人

議長(会長) 代表理事 齊藤 裕

(副会長) 代表理事 河東 晴子

(副会長) 代表理事 松井 知己

(副会長) 代表理事 木村 俊一

監 事 大城 直人

監 事 渡辺 隆裕